

あなたをプラスの人生へと導く

しなんげ

1

2018



あなたの初めは小さくあっても
あなたの終りは非常に大きくなるであろう。
(ヨブ記 8:7)

起きよ、光を放て。
あなたの光が臨み、
主の栄光があなたの上に
のぼったから。(イザヤ 60:1)

純福音東京教会・出版部

〒160-0021 東京都新宿区歌舞伎町 2-2-19 Tel.03-3232-0067 Fax.03-3232-0729 www.fgtc.jp

Full Gospel Tokyo Church

CONTENTS

- 2 からすを見直す イ・ヨンファン牧師
- 4 ヨンサンコラム チョウ・ヨンギ牧師
・後のものを忘れ
- 6 メッセージ 志垣重政牧師
・奇跡の聖誕
- 9 **特集** | クリスマスの思い出
・ベツレヘム、小さな洞窟でのクリスマス
・クリスマスキャロルとクリスマス
- 22 信仰の明文化を成し遂げますように② イ・ヨンファン牧師
・教会建築後、多産の祝福を受ける
- 26 主と歩く ヘンリー・グルーパー牧師
・みんなの者が一つとなるため
- 31 十字架の檀上 カン・サン牧師
・あなたは実に大切な人
- 35 牧会の香り キム・ヨンヒョン牧師
・御霊をメンターとし、神の御視線に合わせていく教会
- 40 これが知りたい シン・ソンジョン牧師
・酒に酔ってはいけない」(エペソ 5:18) としながら、
なぜ主イエスはカナの婚礼式でぶどう酒をおつくりにな
ったのですか？
- 42 世の中を変える キム・チョンファン牧師
筆箱にイエス様の愛を詰めてください
- 47 世の終わりの日まで ソン・ヒョンギョン牧師
・クリスマスにキリストを守ろう
- 51 聖書の中の法律の話 パク・サンフム弁護士
・献金

この「しなげ」は、おもに韓国版信仰界 12 月号より抜粋して、翻訳し再構成したものです。
ちなみに、聖書の御言葉は「口語訳」を引用しています。

カラスを見直す

一年が暮れていきます。「ここまで導いて」くださった主の恵みを賛美します。激しい変化、熾烈な人生の中で、主は「嵐の中で恵み」を与えてくださいました。

どんなときでも、私たちは絶対肯定、絶対感謝の観点により物事と人、環境と世の中を見なければなりません。

最近、日本のNHKによると、カラスに少なくとも40種類の言葉があることが分かった。日本の国立総合研究大学院大学の塚原直樹助教は、過去15年間で2千以上カラスの鳴き声を収集・分析したといいます。その結果、「か〜か〜か〜」と鳴くのは、「こっちに食べ物があるよ」という意味であり、「カッカッカッ」と鳴くときは、危険を知らせる意味であるとわかりました。

カラスは孝鳥です。親鳥が病んでいるとき、ひな鳥が餌を持って来るのは、唯一、カラスだけです。主も言われます。ところで、私たちは縁起の悪い鳥だと思い、「不吉なこと」を予想します。

エリヤにパンや肉を持ってきた鳥、洪水の後、ノアが最初に飛ばした鳥がカラスです。主も言われます。「からすのことを考えて見よ。まくことも、刈ることもせず、また、納屋もなく倉もない。それなのに、神は彼らを養っていて下さる。あなたがたは鳥よりも、はるかにすぐれているではないか。」(ルカ 12:24)

カラスは恩返しと祝福の鳥です。カラスを見直す気持ちで世の中と人を見て肯定的に考え、感謝するとき、一年が新たになるでしょう。†



後のものを忘れ



旧年のカレンダーの最後のページを切り取って、インクの匂いがする新年のカレンダーをつける時、誰でも心にときめきを感じるはずです。そろそろ新年を迎えるために過去のことを顧みる時期になりました。

聖霊様は使徒パウロを通して、私たちの人生の姿勢を整えるために、「後のものを忘れ」（ピリピ 3:13）と言われました。私たちの心の中には、記憶しなくてもいいことが積み積み、前途の邪魔をするときがあります。まず、これらを忘れなければなりません。まさに小川のほとりに座り、花びらを取って川に投げ捨てるように、悲しみ、恨み、憎しみ、理不尽、恥、などを忘れなければなりません。

私たちはまず、罪に定める意識を脱ぎ捨てなければなりません。罪に定める心は罪責感をもたらし、罪責感はその中の楽し

みを喪失させ、勇気と希望を失わせます。これはまた、病の原因にもなり得るのです。ですから、すべての罪責感を主の御前におろし、主の血潮で洗い流してください。神は、私たちの罪を記憶しないと仰いました。私たちも自分のすべての罪を悔い改めて忘れなければなりません。

二番目、私たちは過去の失敗を考えて、また考えて、劣等意識と挫折感に捕らわれないようにしなければなりません。人々是对人関係や事業に失敗すると、自分自身に失敗者の烙印を押し、失敗者のイメージを持って劣等意識と挫折感に陥り、本当の失敗者になってしまうのです。しかし、失敗しない人はいません。たとえある事に失敗したとしても、その事に失敗しただけです。決して、人生に失敗したわけではありません。ですから、失敗から来る強迫観念を脱ぎ捨てなければなりません。

三番目、完璧主義を捨てなければなりません。完璧を求める考え方により、家庭や社会生活に破綻を起こしたなら、その考え方は捨て、忘れてください。完璧主義のままに生きるなら、常に分裂と破壊と不幸が近寄ってきます。新年は、対人関係において広い雅量と包容力を所有する私たちとなり、神の御前に良心をなくさない範囲ですべての人と和解するならば、そこに人生の真の味があります。

最後に、過去の栄光に生きてはなりません。人は目的を追求します。新しい目標がなく、過ぎ去った過去の栄光に酔って生きるならば、その人にはすぐに滅びが近寄ってくるのです。

これらのいっさいの事を捨てて、「ただこの一事を努めている。すなわち、後のものを忘れ、前のものに向かってからだを伸ばしつつ、目標を目ざして走り」（ピリピ 3:13～14）——新年を迎える私たちになりましょう。†



奇跡の聖誕

—— ルカによる福音書 1 章 26 ～ 38 節 ——

六か月目に、御使ガブリエルが、神からつかわされて、ナザレというガリラヤの町の一処女のもとにきた。この処女はダビデ家の出であるヨセフという人のいいなづけになっていて、名をマリヤといった。御使がマリヤのところにきて言った、「恵まれた女よ、おめでとう、主があなたと共におられます」。この言葉にマリヤはひどく胸騒ぎがして、このあいさつはなんの事であろうかと、思いめぐらしていた。すると御使が言った、「恐れるな、マリヤよ、あなたは神から恵みをいただいているのです。見よ、あなたはみごもって男の子を産むでしょう。その子をイエスと名づけなさい。彼は大いなる者となり、いと高き者の子と、となえられるでしょう。そして、主なる神は彼に父ダビデの王座をお与えになり、彼はとこしえにヤコブの家を支配し、その支配は限りなく続くでしょう」。そこでマリヤは御使に言った、「どうして、そんな事があり得ましょうか。わたしにはまだ夫がありませんのに」。御使が答えて言った、「聖霊があなたに臨み、いと高き者の力があなたをおおうでしょう。それゆえに、生れ出る子は聖なるものであり、神の子と、となえられるでしょう。

あなたの親族エリサベツも老年ながら子を宿しています。不妊の女といわれていたのに、はや六か月になっています。神には、なんでもできないことはありません」。そこでマリヤが言った、「わたしは主のはしためです。お言葉どおりこの身に成りますように」。そして御使は彼女から離れて行った。

乙女マリヤが身籠ったことは、神にとっては普通のことであり、当然なことでした。それを私たちは奇跡と呼びます。今まで、神がおできにならなかったことは一つもありません。今日の聖誕も、神がなされたことであったから可能であり、奇跡と呼べるのです。イエス・キリストの聖誕は、正しく奇跡なのです。ここで知らなければならないことは、奇跡を起こされたのは神ですが、マリヤとヨセフの信仰を通して奇跡がなされたことです。神は、人の信仰を通して働いてくださいます。今日も、皆さんの信仰を用いて、奇跡を起こそうとされていることを信じましょう。

第一に、待つことを知しましょう。神は、救い主を与えてくださるために、4千年もお待ちになりました。「わたしは恨みをおく、おまえと女とのあいだに、おまえのすえと女のすえとの間に。彼はおまえのかしらを砕き、おまえは彼のかかとを砕くであろう」(創世記3:15)。また、6百年以上も預言者イザヤの言葉の成就を待った人々がいます。「それゆえ、主はみずから一つのしるしをあなたがたに与えられる。見よ、おとめがみごもって男の子を産む。その名はインマヌエルとなえられる」(イザヤ7:14)。期待して待つところに奇跡が現れます。千年を一日のように過ぎさ

れる神の御前で、待つことを覚えなければなりません。

第二に、信じることを知しましょう。待つことは、信じることです。農夫が春に種を蒔き、秋に収穫することを夢みるように、信じるのです。この世のことは、人の才覚や経験で解決することができたとしても、神のことは、信仰無くして為すことはできません。目に見えず、耳に聞こえず、手に触れることができません。それでも信じるのです。「信仰がなくては、神に喜ばれることはできない。なぜなら、神に来る者は、神のいますことと、ご自身を求める者に報いて下さることとを、必ず信じるはずだからである」(ヘブル 11:6)。奇跡を望むのなら、神に喜んでいただかなければなりません。神と私たちの関係は、信仰の上に成り立っていることを忘れてはならないのです。

第三に、従順することを知しましょう。信仰の客観的証拠は、御言葉に従順することです。アブラハムは、神が死人の中から人をよみがえらせる力があるとの御言葉を信じ、従順してイサクを捧げました。御言葉に従順することは、自分の利益よりも、神の利益を優先させることです。イエス様は、神であられることを放棄して、御言葉に従順し、十字架に架かれ、復活されました。ご自分の利益ではなく、神の利益、私たちの利益を優先されたのです。これこそ、従順の極致であり、その結果として救いの完成がなされたのです。イエス様の聖誕の裏に、マリヤとヨセフの従順があったことを忘れてはなりません。今日も、私たちの従順を通して、神は奇跡を起こしてくださいます。

どうぞこの聖誕の奇跡が 2018 年も皆さんと共にありますように、主の御名によって祝福いたします。†

特集 | クリスマスの思い出

イ・ビョンチョル 牧師／エルサレム ヘブル大学留学中

ベツレヘム、 小さな洞窟でのクリスマス



2016 年 12 月には、エルサレムはすっかり光の装飾でいっぱいだった。クリスマスツリーではなく、9 つの燭台で構成されたハヌキアの輝く装飾が、エルサレム市内の至る所を明るく照らしていた。ハヌキアは、ユダヤ人の祝日のハヌカを記念する象徴物であり、公共の場や道路、及び町の入り口だけでなく、家々の窓際にハヌキアを飾る。ハヌキアは、幕屋の聖なる器具の一つである燭台、メノラーに似ているが、メノラーは 7 本の燭台、ハヌキアは 9 本の燭台に構成されている。

「エルサレムで宮きよめの祭が行われた。時は冬であった。」
(ヨハネ 10:22)

ユダヤ人の祝日ハヌカは、ヨハネによる福音書において言及された『宮きよめの祭』である。B.C. 164 年 12 月 25 日、ハスモン家に属するマカベア（ハンマーの意）というあだ名を持つユダを中心に、セレウコス王朝のアンティオコス 4 世によって汚された神殿を、3 年間の戦いの末に取り戻し、浄化して再び主に「奉献」したことを記念した祝日である。彼らがエルサレムの神殿を占領したとき、神殿の燭台（メノラー）を点す聖なる油、汚されていない油は一日分の量しか残っていなかった。けれども、神は、未亡人の家の油が切れなくされたように（Ⅱ列 4:1～7）奇跡を起こされ、8 日間も消えずに燃え続け、神殿の燭台を照らしたという。ここからハヌカが誕生した。

このような奇跡を記念して、人々はハヌカ初日の夕方から毎日 1 本の燭台に火を点けていくのである。初日は、他の燭台に火を点けるための種火用燭台（中心にある燭台）と、他の 1 本目の燭台に火を点ける。こうしてその種火で毎日一本ずつ他の燭台を点火していき、8 日目にはすべての 8 本の燭台に火が灯される。家々の窓際に置かれたハヌキアは、家と世界を照らす。人々は油を使った料理を食べながら、互いに準備した贈り物を交わすなどしてパーティーを楽しむ。行く所々には喜びの声で満ち溢れる。子どもたちは、「ネス・ガドール・ハヤ・ポー（偉大な奇跡がここに起きた）」の頭文字となる、ヘブライ文字（ヌン、ギメル、ヘー、ペー）が書かれたコマを回して遊びながら、その日の奇跡を記憶する。

特に、2016 年のクリスマスはハヌカの初日と重なり、なおもハヌキアの光がエルサレムの全域を明るく埋め尽した。しか

し、世の光として来られた主イエスのための祝いや挨拶（Merry Christmas）、キャロルと聖誕の喜びはなかなか見られなかった。

不思議で驚くことに、主イエスの生涯と足跡が遺されているイスラエルとパレスチナの地で、クリスマスの良き知らせを体験できる場所は意外に少なかった。それでも、都市全体的な行事としてクリスマスを準備する所は、イスラエルのナザレとパレスチナのベツレヘムが代表的だ。

新しい生命の文化を造り出す所

2016 年のクリスマスイブに、主イエスの誕生を記念し祝うためにベツレヘムへ向かった。私たちは、星が東方の博士を幼な子イエスの所へ導いた、その道（マタイ 2:2）を歩いた。主イエスの誕生を記念し集まった巡礼者と、クリスマスパーティーを楽しむために集まった観光客、季節の搔き入れ時を迎えた商人たちで混雑していた。伝統的に、クリスマスイブにエルサレムからベツレヘムまで、巡礼の道を（約 7km）歩く行列に参加した人々が集まり始めた。2015 年のクリスマスを控え、ある事件が発生した。それは、イスラエルとパレスチナの紛争の中で、イスラエル軍がイスラエル人を攻撃し、3 人のパレスチナ人が射殺されたことである。この事件のゆえに、ベツレヘムでは多くのイベントがキャンセルされた。その影響で、群衆の集まりがいつもより少なかったという。

遂に聖誕教会の前の広場に到着した。馬槽（まぶね）広場の前に置かれた大きなクリスマスツリーと星を見ると、ようやくクリスマスが身近に感じられる。新たに設置されたステージで祝賀公演が行われ、キャロルを歌いながらクリスマスの喜びを

交わした。聖誕教会の隣にある聖キャサリン大聖堂では、人類の平和を願う真夜中のミサが行われる予定だ。

私たちは広場で 30 分程度のお祭り雰囲気を楽しんだ後、私たちだけのクリスマス礼拝を捧げるために場所を探し始めた。羊飼いたちが主イエスの誕生の知らせを聞いた場所（ルカ 2:15～20）、牧者たちの野原教会内にある洞窟に行ってみた。しかし、残念ながら牧者たちの野原教会はカトリック教会の所有のゆえに、そこでプロテスタント教徒たちが公式的に礼拝を捧げることは許されてない。

残念ながら、パレスチナの地でクリスマス祝祭が進行中であるベツレヘムでさえも、プロテスタント教徒のための礼拝空間はなかった。それでも幸いなことは、公式的な礼拝は禁じていても、賛美し祈ることは了承してくれた。私たちは誰もいない、自然の洞窟を発見し、そこで主イエスの誕生を祝い、賛美し祈った。2 千年前に、低き所まで訪ねて来られ、この世で疎外された羊飼いたちに、主イエスの誕生をお知らせになった神の恵みを思い感謝した。

賛美と祈りを捧げながら、ふと、このような考えが浮かんだ。「なぜ主イエスはベツレヘムでお生まれになっただろうか？」

神は、紀元前 8 世紀に預言者ミカを通して、ベツレヘム・エフラタでメシヤが生まれると言われた。——「しかしベツレヘム・エフラタよ、あなたはユダの氏族のうちで小さい者だが、イスラエルを治める者があなたのうちからわたしのために出る。その出るのは昔から、いにしえの日からである。」（ミカ 5:2）——ベツレヘムは、私たちに馴染みのある地名だが、エフラタはそうではない。しかし、エフラタは創世記 35 章にも登場する。「こうして彼らはベテルを立ったが、エフラタに行き着くまでに、

なお隔たりのある所でラケルは産気づき、その産は重かった。その難産に当って、産婆は彼女に言った、『心配することはありません。今度も男の子です』。彼女は死にのぞみ、魂の去ろうとする時、子の名をベノニと呼んだ。しかし、父はこれをベニヤミンと名づけた。ラケルは死んでエフラタ、すなわちベツレヘムの道に葬られた。ヤコブはその墓に柱を立てた。これはラケルの墓の柱であって、今日に至っている。」（創世記 35:16～20）

エフラタ（エフラテ）は、ラケルが息子ベニヤミンを産み死んだ場所だ。一つの生命を生むために、一つの生命が死んで逝った場所なのである。また、ルツ記の背景となるベツレヘムは、ボアズとルツが出会った場所でもある。ユダヤ人であるボアズとモアブの女ルツとの愛の物語の場所だ。律法によれば（申命記 23:3）、モアブ人は主の総会に永遠に入ることのできない民族だ。ベツレヘムは、ユダヤ人と異邦人が出会い、愛にあって律法よりも神中心に新たな生命の文化を造り出した場所だ。そこでダビデが生まれ、イエス・キリストがお生まれになった。

キリストは全人類を救うために、天の御座からこの世に降りて来られた。神が主イエスを送られた場所は、一つの命を生むために一つの生命が死んで逝ったエフラタだ。ユダヤ人と異邦人が一緒に、神中心の信仰にあって新しい信仰の文化を造っていったベツレヘムだ。

たとえ、イスラエルとパレスチナの地で、主イエスの誕生を祝うクリスマスを思う存分喜び楽しめなくても、私たちが思う存分主を礼拝することができなくても、私たちは十字架の愛を実践していくその場所で、新たに再臨される主イエスに出会はずだと、私は信じている。†

クリスマスキャロルとクリスマス



神は、賛美をお受けになるために、人を創造なさった。

「この民はわが誉れを述べさせるためにわたしが自分のために造ったものである。」(イザヤ 43:21)

神は、人に誉れを述べさせるために、人類史上最高の預言者モーセに、このように命じられる。

「それであなたがたは今、この歌を書きしるし、イスラエルの人々に教えてその口に唱えさせ、この歌をイスラエルの人々に対するわたしのあかしとならせなさい。わたしが彼らの先祖たちに誓った、乳と蜜の流れる地に彼らを導き入れる時、彼らは食べて飽き、肥え太るに及んで、ほかの神々に帰し、それに仕えて、わたしを軽んじ、わたしの契約を破るであろう。こうして多くの災と悩みとが彼らに臨む時、この歌は彼らに対して、あかしとなるであろう。(それはこの歌が彼らの子孫の口にあっ

て、彼らはそれを忘れないからである。) わたしが誓った地に彼らを導き入れる前、すでに彼らが思いはかっている事をわたしは知っているからである」。モーセはその日、この歌を書いてイスラエルの人々に教えた。」(申命記 31:19 ~ 22)

下線が引かれた部分を注意深く見てみよう。子どもの賛美の必要性を語っておられるからだ。モーゼはすぐに賛美歌を作り、イスラエルに教えた。

人類史上最高の賛美歌作家、ダビデ王

羊飼いからイスラエルの王となったダビデは、神の御心を最もよく理解し悟った王だ。彼は、神が賛美を喜ばれることを知り、多くの曲を作り出し、自分も賛美した。その代表作が、詩篇 23 篇「主は私の羊飼い。私は乏しいことはありません」である。この短い詩の中に、人生史のすべてを含蓄させた、ダビデの能力は素晴らしい。羨むばかりだ。

彼はどんな場合でも賛美をした。敵に追われたときも、敵の前で狂ったふりをするときも、姦淫と殺人を犯し、預言者ナタンに責められたときも、自分を殺そうとした息子アブサロムが死んだときも、また主の契約の箱がダビデの町に入ったとき、彼は踊りながら賛美した。まさに彼は、賛美の人だ。詩篇 150 篇中、73 篇がダビデの詩として挙げられる。

キリスト・イエスの生涯は賛美により始まった

主イエスの誕生を告げ知らせる、『天使の賛美(クリスマスキャロル)』を見てみよう。

「さて、この地方で羊飼たちが夜、野宿しながら羊の群れの番をしていた。すると主の御使(みつかい)が現れ、主の栄光が彼らをめぐり照したので、彼らは非常に恐れた。御使(みつかい)

は言った、『恐れるな。見よ、すべての民に与えられる大きな喜びを、あなたがたに伝える。きょうダビデの町に、あなたがたのために救主（すくいぬし）がお生れになった。このかたこそ主なるキリストである。あなたがたは、幼な子が布にくるまって飼葉おけの中に寝かしてあるのを見るであろう。それが、あなたがたに与えられるしるしである』。するとたちまち、おびただしい天の軍勢が現れ、御使（みつかい）と一緒に神をさんびして言った、『いと高きところでは、神に栄光があるように、地の上では、み心にかなう人々に平和があるように。』（ルカ 2:8～14）

この御言葉は、今日のテーマ「天使の賛美（クリスマスキャロル）」である。まず、『神に栄光あり』であり、次に、神によって喜ばれる『人々の平和』だ。ところが、今日の教会は、『神の栄光』より『人々の平和』のみを追求するようで、残念に思う。

賛美歌禁止令

初代教会は賛美により始まった。旧約時代は会堂で、詩篇の御言葉をもって唯一なる神を賛美した。しかし主が十字架に架かって死なれ、三日目によみがえり、40 日後に昇天なさった。そして弟子たちは、ペンテコステの日に聖霊のバプテスマを受け、主イエスの復活を証しし始めた。従って、初代教会が誕生したのである。

教会は行く先々で熱心に賛美した。だが、様々の国や民族、多様な伝統のリズムで賛美歌を作詞作曲し演奏した。それゆえ、(いまだにそうではあるが) 聖書的に、神学的に、芸術的に勧奨できる賛美ではなく、直接的かつ幼稚な歌詞や曲調、歌い方になった賛美が、より多く歌われるようになった。しかも、大衆

音楽との交流が活発になり、賛美歌の正統性と敬虔性に問題が生じるようになった。それに、異端が浸透し教会を混乱させることもあった。

それで、西暦 341 年に開かれた「ラオデキヤ教会の総会」では、長年議論した末、13 番目の法令に、「教会では、講壇に登って、本を持って賛美する指定された歌手以外に、賛美をしてはいけない」という内容を盛り込んだ。

初代教会で盛んに行われていた「聖霊の感動を受けて歌う即興の賛美」を禁止し、自作賛美を禁止するためには、このような決定を下すしかなかったであろう。そして礼拝を捧げる時は、聖書に載っている賛美 (Canticle) だけを歌うようにした。それも専門家である聖歌隊だけが賛美するよう、法制化したのである。こうして会衆賛美は抹殺された。聖徒は、礼拝堂で聖歌隊の賛美を鑑賞 (?) するのみで、自ら賛美することは許されていなかった。もちろん、作詞作曲もしてはならなかった。

キャロル (Carol) の誕生

神を賛美しようとする、またこうして新しい歌を作詞作曲しようとする熱望を誰が防ぐことができようか。教会では歌えなくても、教会の礼拝で歌わなくても、民衆たちは『新しい歌』を作り、神を賛美した。それが〈民衆歌〉である。ラテン語の遠い昔には伝わってない賛美 (Laudi Spirituali) を意味する、英語のキャロルがそれである。

キャロルは、有節歌詞にリフレインがついた民謡的キリスト教歌だ。イギリスのキャロルの黄金期 (1350 ～ 1550 年代) の多くのキャロルは、有節歌の性格を持つようになり、14 世紀の初めから本質的に民衆的宗教音楽として固定された。当時の多

くのキャロルのメロディーと 500 個程の歌詞が伝わっているが、殆ど聖母マリアや幼な子イエス、クリスマス以後の聖人たちの祝日を記念するものだ。

最高のクリスマス讃美歌であるチャールス・ウェスレーの「天には栄え」（讃美歌 98 番）は、いまだに各国で歌われている。伝来の「ブロードサイド集、Collections of traditional broadsides」に支えられ、キャロルが復活するようになるが、この本には、「初めてのノエル（^{まきびと}牧人羊を）、The first Noel」（讃美歌 103 番）が載っている。

しかし、アメリカから発祥した近代キャロルは、キリスト教の本質から遠く離れ、サンタクロースを前面に出した商業主義的な歌で、食べて飲んで楽しもうという享楽主義の歌に変質し、相当数がキャロルという名が付いているだけで、キャロルと言えないものばかりだ。

クリスマスキャロルの由来

19 世紀の上半期に、イギリスでは家々を訪問し、キャロルを歌ってくれる習慣があった。村のすべての子どもたちは、クリスマスに使う資金を集めるため、11 月下旬からスタートし、各家を歩き回りながら、キャロルを歌った。

米国のエッセイストであり小説家である作家ワシントン・アーヴィング（Washington Irving、1783 ～ 1859）は、1820 年にイギリスを訪問した時、クリスマスの夜、窓の下から聞こえてくる合唱団の美しいキャロル音に目が覚めた。この合唱団は、「十数人の町の人たちで構成され、窓の下で歌ながら、家々を歩き回った。決してその和音が上手だとは言えないが、非常に美しくかった」と、彼の著書に記録している。

こういうキャロリング（Carolling）は、天使たちの賛美によってイエス・キリストの誕生の良き知らせを伝えたように、クリスマスの夜明けに、救い主誕生の喜びを家々に告げ知らせるという意味だ。

クリスマスキャロルの真の意味は、――

① 天使たちが聖誕を祝い賛美したように、主の誕生を喜んで神に賛美ささげ、各家庭を祝福すること。② 聖なるクリスマスに、聖徒たちが目を覚まし主を迎えること。③ 世の光として来られた主の良き知らせ、福音を夜明けとともに知れ渡らせること。④ クリスマスキャロルの隊員が主の中で霊的行進をしながら、自分たちの踏む地を主が支配してくださるように願うこと。⑤ クリスマスキャロル隊員を迎える聖徒の家庭では、彼らのために小さなプレゼントを準備し、天使のように迎え歓待することにより、聖徒の交わりを厚くすることだ。

最近では、殆どその姿は消えてしまったが、毎年クリスマスの明け方に、クリスマスキャロルを歌いながら、聖徒の家を家から家へ訪問したり、町で幼な子イエスの誕生を祝い、福音を伝えたりした。幼女時代、クリスマスキャロルは楽しみの一つであった。1 年の中で唯一、親が子どもの外泊を合法的に許す日でもあったため、時には未信者たちが、この日を用途変更して使われたりもした。この時に歌った音楽は殆どキャロル（Carol）だった。

近代的意味のキャロルは、12 世紀頃、聖フランシスクス（St. Francis）が最初に開始したと伝わっているが、イエスが誕生した 12 月 25 日、馬小屋の前で人が踊って歌う行事を行ったのが、

現在のキャロルの姿を帯びた最初の形だと言われている。

初期のキャロルは、おもに踊るために使用されて、たまに歌詞が異教徒的な内容を含んでいる場合もあり、18世紀には、教会でキャロルを歌うのを厳しく禁止したこともあった。実際に、あるキャロルは、キリスト教とは無関係な歌詞で埋め尽くされたものもあり、サンタクロースとかかわるキャロルの中にも、キリスト教と直接関連がないものもある。

そしてもう一つの特徴は、ほとんどのキャロルの途中でラテン語が登場するという点である。ノエル、グロリア等が良い例である。形式は、ロンドのように、おもなメロディーとリフレーンが何度も繰り返される。

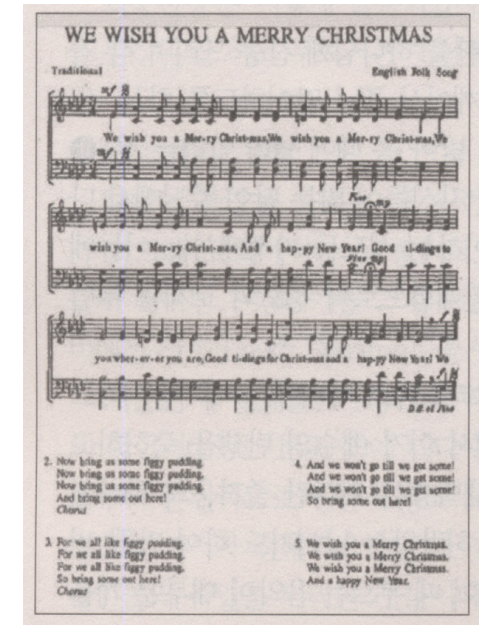
最も大きなキャロルの有益は、キャロルを聴くと、貧しい隣人を考えるようになり、心の中にしっかり閉じ込めていた愛のエネルギーが噴出されるという点だ。ケチスクルージのインスピレーションも、キャロルの魔力に惹かれ善良な行動をするようになり、世界のすべての人々が天使になった。主イエスがこの世に来られた最大の理由は、まさに「あなたの隣人を愛しなさい」というメッセージを伝えるためではないだろうか。キャロルは今、全世界を回りながら愛のメッセージを伝えている。

ピューリタン (Puritan) が建てたアメリカでは、クリスマスキャロルが非常に発達していた。

その中の代表的な歌が次の歌だ。

その歌詞を翻訳してみると、非常にコミック (Comic) してウィットにあふれている。

<1節>楽しいクリスマスあなたに／楽しいクリスマスあなたに／楽しいクリスマスあなたに／そして幸せな新年を



／喜びの便りをあなたと家族に／クリスマスに 幸せな新年に！

<2節>クリスマス・プディングが食べたい／クリスマス・プディングが食べたい／クリスマス・プディングが食べたい／クリスマス・プディングが食べたい／お願いここに持ってきて！／喜びの便りをあなたと家族に／クリスマスに／幸せな新年に！

<3節>食べるまでどこにも行かないよ／食べるまでどこにも行かないよ／食べるまでどこにも行かないよ／だからここへ持ってきて！／喜びの便りをあなたと家族に／クリスマスに 幸せな新年に！

<4節>楽しいクリスマスあなたに／楽しいクリスマスあなたに／楽しいクリスマスあなたに／そして幸せな新年を／喜びの便りをあなたと家族に／クリスマスに／幸せな新年に！†



教会建築後、 多産の祝福を受ける



祖父とカン・ヤンウク牧師

ある有名な牧師が天国と地獄を経験した内容を本に執筆した。その本には、キム・イルソンの母方の祖父の再従兄弟のカン・ヤンウク牧師が地獄の最も深い場所で留まっていたという内容が出てくる。キム・イルソン、キム・ジョンイル、キム・ジョンウンと続く世襲政権が多くの人を死に追いやり、血を流している。その過程でカン・ヤンウクの責任が大きいというのだ。実はカン・ヤンウクは私の祖父が運営するミシン貿易会社の会計担当であり、父の家庭教師でもあった。更には、ソムンバク教会で祖父と共に教会に仕えた直属の後輩長老だった。

ソムンバク教会がどのような場所なのか。多くの信仰の先進者たちを輩出した信仰の場所であり、スンシル大学を胎動させた教会でもある。セムンアン教会初代堂会長カン・シンミョン牧師、スンシル大学総長ウ・ホイク博士、セブランス病院長キ

ム・ミョンソン博士は皆ソムンバク教会出身だ。この方達は皆、祖父と親しく、神様の尊い働き人だった。特にスンシル大学を設立した中心人物たちは皆ソムンバク教会出身だ。ソムンバク教会出身者が、北から南朝鮮に下りてきて設立した教会がまさに現在ソン・ダルイク牧師が仕えるソムン教会だ。

するとカン・ヤンウクはどのような存在だったのか。彼はピョンヤン神学校を卒業し、牧師となり、基督教連盟中央委員長そして副主席を歴任した。彼の次男カン・ヨンソプが朝鮮基督教連盟委員長として活動していた。キム・イルソンはすべての人を「友、仲間」と呼んだが、唯一カン・ヤンウクには「先生」という呼称を使い、毎年誕生日には直接プレゼントを持って訪ねて行く礼儀を示した。北朝鮮でキム・イルソン回顧録以降、個人に対する本が発刊された唯一の人であり、死ぬ時まで第2の人物として副主席の位置にいた人だ。

しかし、彼は牧師というよりは政治人だった。基督教の信仰はただ単にうわべだけのものだった。イエスを正しく信じていなかった。事実、信じないというよりもっと危険なのは、正しく信じないということである。カン・ヤンウクは頭脳明晰で言語に卓越した人物だった。どのような状況にぶつかっても、それを的確に判断し、対処できる能力をもつ人だった。北朝鮮にキム・イルソン政権が建てられた頃、ある時カン・ヤンウクが祖父を訪ねてきた。「お兄さん、もう世の中は変わりました。この政権に協調しない人物は皆監獄に入れられ、殺されます。お兄さんは信仰が強く、性格もまっすぐですから、共産政権には協調するようには思えません。」

祖父は黙々とカン・ヤンウクの話聞いていた。ぱっと何か

言葉を言えることもなかった。カン・ヤンウクの言葉が全て事実だったからだ。「それでは、どうしろということなのか？」
「お兄さんとご家族皆さんの生きる方法はひとつだけです。すぐに越南してください。その道しかありません。私が知らぬ振りをして、目をつむります。」

終末信仰で武装しなさい

祖父は、3.1運動の時、万歳事件で巻き添いに合い6ヶ月間拘留されていた。篤実なクリスチャンとして、長老として、キム・イルソン共産政権下で信仰を放棄しなかった方だ。結局祖父は家族皆を連れ、越南した。それはまさにヨセフが彼の家族と共に新しい地、エジプトに定着することのように劇的なことだった。

1948年6月。祖父は急に家族会議を開いた。そして家族皆が翌月ファンヘドのヘジュという場所に集まるよう指示した。祖父はその場所に予め小さな船を一隻借りておいた。家族皆は平常時と変わらない服装で、全ての財産と個人の所有物をピョンヤンに残し、カバン1つだけ持ち、散らばった後、ヘジュという場所に集まった。当時、中学生だった叔父（現在カナダトロントの大きな光教会長老）は制服を着たまま学校鞆を持ってヘジュ港に到着した。

ある牧師の天国と地獄の経験話をしながら、カン・ヤンウクのことを取り上げて論ずることが重要なことではない。そのストーリーが、私たちにとって、どれほど正しい信仰生活を送ることのできる刺激剤になるのかが重要なのだ。天国と地獄は私たちが生きる間、簡単に頻繁に出入りできるような場所ではない。ゆえに天国や地獄を論ずることは非常に繊細で気をつけなければならない部分だ。しかし、私たちは天国と地獄が必ず存

在することを信じ、いつも「終末信仰」で武装しなければならない。信仰生活もいつも緊張感を維持しなければならないのだ。

120余年前、8代目の長男であった曾祖父はピョンヤンで福音を伝えた初期の宣教師たちを通してイエス様をキリストとして迎え入れ熱心に教会に仕えた。そして教会を建築する時は直接山に登り、大きな木を切り教会建築用の木材としてあつらえたこともあった。祈りと情熱と労働とお金をすべて教会建築に捧げた。

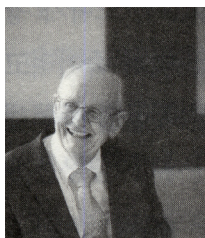
教会建築は負担にもなるが、牧会者と教会員には祝福の通路となる場合が多い。教会が完工した後から私たち家族に大きな祝福が臨んだ。人手が非常に貴重だった家に祖父は9代目の長男として生まれたが、曾祖父が教会建築に献身した後、その次世代である祖父が大きな祝福を受けたのだ。その中で最大の祝福は多産の祝福だった。祖父は神様から9人の子を贈り物として受けた。祖母が4男5女を出産することで、義両親が思っていた後世についての心配はきれいに消え去った。神様はいつも民を選ばれ祝福を下さる。しかし皆に祝福を与えるのではない。一つ条件がある。その条件は申命記28章に出てくる。

「もしあなたが、あなたの神、主の声によく聞き従い、わたしが、きょう、命じるすべての戒めを守り行うならば、あなたの神、主はあなたを地のもろもろの国民の上に立たせられるであろう。もし、あなたがあなたの神、主の声に聞き従うならば、このもろもろの祝福はあなたに臨み、あなたに及ぶであろう。あなたは町の内でも祝福され、畑でも祝福されるであろう。」(申命記28:1～3)。

何より御言葉中心の信仰生活が重要だ。私はこのようなすべての信仰の基本を祖父と両親から学んだ。私にはこれが最高の祝福だ。†



みんなの者が一つとなるため



ヘンリー・グルーバー
(Henry Gruver) 牧師

「世を歩くとりなし祈祷者」で知られた筆者は 18 歳の時からアメリカのアリゾナ州フェニックスの犯罪多発地域で主と共に歩き始め、今も主と共に歩いている。彼は全世界のどんな場所でも、出会った人たちのために祈り、福音を伝えている。彼の人生には超自然的な不思議が多くあったが、より大事なことは、彼が主の御言葉に従順しながら歩き、祈っているという事実だ。

「父よ、それは、あなたがわたしのうちにおられ、わたしがあなたのうちにいるように、みんなの者が一つとなるためであります。すなわち、彼らをもわたしたちのうちにおらせるためであり、それによって、あなたがわたしを乙川氏になった、世が信じるようになるためであります。」(ヨハネ 17 : 21)

幼少のころ、兄たちは、アヒルに鶏卵を与えて孵化させる遊びをしていた。ひよこたちはアヒルを母だと思って追いまわっ

ていた。ひよこたちがアヒルの後をびよびよと泣きながら付きまとう光景は、おかしくもあり可愛くもあった。アヒルはひよこたちを連れて小池に行った。ひよこたちは、母アヒルについて小池の中に入って行ったけれども、泳ぐことを覚える前に溺れてしまった。母アヒルは、ひよこたちを水の中からすくいあげるために慌てていた。

学校で反キリスト教的教えを受けて来た若者たちは、時には牧会者たちや既成世代にとって、ひよこたちのように異質的に感じられるときがある。成熟した信仰者から見れば、この若者たちはなかなか泳げない世代に見えるかも知れない。神には不可能はない。1960 年代に、神はヒッピー世代における『イエス運動』を通して、フラワー世代を起された。彼らにキャンディを一つ渡ししながら、軽い気持ちでイエス・キリストを伝えるだけだったが、彼らは福音を受け入れてくれた。

神のカイロス時間が全世界に訪れつつある。アメリカ教会と世界は去る 75 ～ 100 年の間、目に見えない巨大な暗闇の勢力から攻撃を受けて来た。私の父は大工であったが、六つの教会を建てた。父は預言に関心を持っていたので、子どもたちを連れて預言集会に参加したりもした。1950 年代のことだ。当時は共産主義が世界的に大きな勢力を占めつつあった。第二次世界大戦に連合軍として参加し勝利をもたらしたソ連が、周囲の中小国家を共産主義衛星国として手に入れ、全世界の貧困地域にも共産主義政権が立てられた。

その当時、あれほど急速に共産主義政権が立てられたのは、その国の国民が共産主義に魅了されていたからではなく、イギリスとアメリカで富と権力を持つ実権者たちが、そういう勢力

に資金と武器を提供し支援していたからだ、自覚のある知識人や信仰人たちはいう。

世界を統治したいと願う勢力は、神と教会と家庭に献身し忠誠させられるキリスト教の影響力を弱化させない限り、自分たちのねらいは叶えられないと知った。だから、キリスト教の真理を崩せる思想を広める者に、巨大な資本を出して支援している。この事実を暴露した書籍が、1950～60年代にアメリカでベストセラーとなった。

私は根拠のない陰謀論を述べているのではない。アメリカの大統領トランプ氏と、彼を大統領にさせた人々、そして多くのアメリカのクリスチャンたちが知っている事実を述べようとしているのである。

ロックフェラー財団、カーネギー財団、ソロス財団などが、性的墮落を助長する研究や、反キリスト教的研究に巨額の資金を支援してきた。アメリカにおける著名な、卓越な学者だとしても、創造論を支持すれば即、学界から退出させられる。なおかつ、同性結婚を反対すれば大学の講義にも出られなくするという、今のアメリカ大学風土の背景にはこういう財団の動きがあった。

貧困の国家を完全に掌握した共産主義は敗北し崩壊してしまっただけでも、ヨーロッパとアメリカに入り込んだ文化共産主義の進歩左派勢力は、最近まで勝利を得たかのように見えた。イゼベルという王妃がアハブ王を操ってイスラエルを掌握したように、少数の巨大な権勢を持った者たちが言論と学問、芸術を通して多くのヨーロッパとアメリカ人の考えを支配して来た。彼らの計画はあまりにも成功的ゆえに、この反キリスト教的流れを断ち切ることなど、できそうもないように思えた。

しかし、私たちの父なる神は、アダムが善悪を知る木の実を食べる前に、すでに二番目のアダムであるイエス・キリストを小羊として備えて置かれた方だ。知恵とあわれみの神は、救済史の重要な決定を、無知でか弱い人間にはさせないと、聖書は伝えている。

家庭の重要な決定は子どもたちではなく、父親がする。御国の重要な決定も父なる神がなさるのである。父なる神が重要な決定を下し執行してしまうその瞬間は、審判の瞬間にも救いの瞬間にもなり得る。けれども、外から見れば審判のように見えるが、実は救おうとされる慈悲深い神の介入の場合が非常に多い。

神は、ヨーロッパとアメリカを襲ってきた文化という名ばかりの反キリスト教的な攻撃、今やヨーロッパとアメリカを越え、アジアを激しく攻撃する反キリストの流れを、これ以上放置されることはないであろう。

神に不可能はない

教会が地域的感情、人種的感情、小さな教理の差、自己義を克服し、一つになって祈れるならば、驚くべき神の栄光の中で劇的な救いの御手を経験する恵みを与えられるであろう。神は、その「国家の運命を決定づける権威」を教会に与えられたが、分裂した教会はその権威を行使することができない。

教会が一つになるときだけに勝利することができると、神は長い時間をかけて警告された。けれども、私は正直、果たしてアメリカ教会が一つになれるだろうかと疑問に思うほど、難しくなっているような気がする。しかし、一つになるために捧げた祈りは結果的に答えられる。今回の大選で、福音主義クリス



チャンたちは素晴らしい一致を見せてくれた。福音主義クリスチャンだけではなく、中絶と同性愛を反対するカトリックも加わり、国家を正しい方向へと導くために働き始めた。

最近、ヨーロッパにいるカトリック信者1万名がヨーロッパ大陸の霊的碎身のために40日断食祈禱会を行なった。プロテスタント教会も霊的碎身、教会が連合のために過激な献身と犠牲の祈りを捧げるべき時である。これから、アメリカだけではなく、多くの国々がキリスト教国家に変わり、キリスト教国家が回復されるという、驚くべき輝かしい神の恵みが注がれるはずだ。

いかにしてそういう御業をなされるかはわからないが、神はもう一度人間の歴史に介入され、この地を回復させてくださるであろう。絶望的に見える様々な事件が、かえって回復のみわざを成し遂げるための装置になる可能性もある。私たちをエジプトから導き出された神は、私たちが口を大きくあけて祈れば満たすという約束をくださった。私たちは信じて祈るしかない。神に不可能はない。

ハマンが高い木を立ててモルデカイをかけようとしていたが、エステルは断食の祈りはむしろ、ハマンが木にかかるようにした。イスラエルの罪と弱さにもかかわらず、イスラエルが国家的使命を果たせるよう、イスラエルを守り救ってくださった。

一つになって祈れるならば、驚くべき偉大な神の救いを迅速に経験できるはずであり、教会が互いに愛し、あわれみ合うならば、勝利する教会になれるのである。†



あなたは実に大切な人

今でも生々しいその思い出の瞬間、まるでナイフで手を切られるような、ひやりとするその感覚の瞬間を忘れることができません。それは、田舎暮らしをしていた頃、個人的に知り逢った後輩の牧師から集会の要請があり、時間の合間を図って遠征に行った時のことでした。集会は初日から聖霊が満ち溢れる時間が続きました。聖霊充滿、恵み充滿な教会の兄弟姉妹達と、その教会の担任牧師の心のこもった見送りの中、私の自宅の帰り道だった。後輩牧師は、感謝とお礼の気持ちで自分の車で私を家まで送りたいと親切に言い出したのです。

長い約4時間ものあいだ、色々な話を交わし、私とよく似ている人、共通点の多い人だなあ、考え方も一致していることが多く、息の合う後輩だなあと思いました。彼の話を聞きながら、心の中で何度もアーメン、アーメンを連発し、そうそうその通りと共感する心に胸がワクワクしました。特に心に響いているのは、神は各々の人に、それぞれの計画があり、そして一人一人が神にとって大切な存在であり、彼と擦れあうところのある人こそが大切な存在です、と言われたことにとても感激しました。私は、その話に涙目になってしまったくらいです。

問題は、長距離の高速道路を運転する後輩牧師がトールゲートを過ぎる瞬間のことでした。窓口から高速料金の精算を呼びかける明るい元気な女性に、後輩牧師は表情ひとつ変えず無言のまま料金だけを渡して窓を閉める。長距離間の運転の中、後輩牧師は無表情、一言も発することなく何度もトールゲートを通じた。結局4時間もの運転の中、一度も返事をするともなく通過してしまっただ。その姿がまるでロボットのように私には見えた。残念な気持ちになった。

私の家に到着し、車から降りる際に、私は優しく彼に声をかけた。彼がロボットのような無表情、返事一つなく無愛想だったことを優しく指摘した。その瞬間、彼の顔は赤くなり苦い顔になった。後に、彼から改めて電話でお詫びと反省の気持ちを告げされた。全く気付かなかった自分を指摘されたことに感謝していると素直な電話だった。私は、誰かを非難するためにこの話をした訳ではありません。ただ、私たちの日常で度々自分の在り方を振り返ってほしいのです。我々は、何よりも神の重要性を優先し、我々の計画よりも、神のご計画と神のみむねが何であるかを知り、それが成就されることをただ願います。しかし、神様は、それを成し遂げる時、いつも人を用い、人を通してそれを成し遂げられるのです。最も神を深く知る瞬間こそが神の形に創られた人を理解する瞬間にもなるのです。

自分のすべてのことをさらけだし、素直にして、神を愛する瞬間に、主イエス・キリストが人のために十字架にかけられた救い主となります。救い主と私が一つとなる。そのお方を心尽くして愛するということは、そのお方と自分の愛が同じ水準になるということです。

個人的には、40年が過ぎた私の人生と、20年間働いた牧師職

の中で憎しみ、恨みの対象になった人がなかったわけではありせん。今でも理解しにくい事や人も周りにはたくさんいます。しかし、私はそのことを、私の肉身からの視覚では判断しないし見ないようにしています。私の中におられる方、主イエス・キリストの愛の視覚で見るときに、その人たちの中にも主イエス・キリストがおられるのが見えるのです。各一人一人に対しての私の期待を諦め、主にゆだね、神のみむねを知り、神の愛でその人たちを待ち、執り成し祈り続ける時に、イエス・キリストと同じ水準の愛で包容することができることを期待しています。

今日も好ましくない相談の電話が2回もあったことで長い時間を無駄遣いされてしまい、一日のスケジュールを完全にこなすことができず、朝方まで徹夜になりました。それでも、その一人一人の痛みのうめき声から聞こえてくる、イエス・キリストの嘆きと祈りがあつたからこそ不足する時間に聖霊が豊かに望む、聖霊満ち溢れる時間となりました。それは、たった一人の中におられる主イエス・キリストのみこころに期待があるからです。今は、傷ついた辛い心が痛いでしょう。しかし、その痛みも共に担って下さるイエス・キリストの清らかな愛の祈りを期待します。傷ついている人のためにイエス・キリストの働きと祈りがあります。その過程を通して不足していても少しずつイエス・キリストに近づいて行くのです。だからこそ、私には耐えられない避けたい人たちを通してその人を愛し、執り成し祈りを捧げることを通して、その人の中におられるキリストを体験するのです。

そのイエス・キリストの嘆きと愛を期待し私たちは、一歩一歩神の国へ近づいていきます。

私たち、人間こそが、唯一
神の姿をしているからです、
神はそうに私達を創造さ
れました。私たちがそれを悟
ることを神は期待されていま
す。

愛する「しなんげ」読者の兄
弟姉妹様！一年間、未塾な私の
書き上げた文書を読んで下さり
本当にありがとうございました！神を信じ、神に従い、神に
感謝と栄光を捧げます。顔も名
も知らない一人一人、皆様に思
い尽して祈ります。神の国は、
人を助け合い、人を通して入れ
る国です。時間に追われて、都
合により慌ただしかった時も通
り過ぎ、心平安にこの一年見送
ることが出来ることを心から感
謝いたします。新年を期待する
気持ちで皆様が素晴らしい良い
年を迎えられることをお祈りし
ます。新年が祝福の一年となり
ますように。そして新年、互い
に執り成しの祈りで心分かち合
いましょう！†

あなたは実に大切な人

大切じゃない人は
ひとりもない。
彼らは、
みんな神の形に創られた。

熱い想いで出逢い、
涙で別れた人も
熱い祈りのなかで
一度きりの出逢いの人も

真実な一言で
忘れかけた人も
愛している一言で
送り出せぬ人も

変わらぬ誠実さで
私の傍を守ってくれる人も
時々思い出して
胸を痛ませる人も

大切じゃない人は
ひとりもない。
彼らは、
みんな神の形に創られた。



御霊をメンターとし、 神の御視線に合わせていく教会

「わたしをつかわされたかたは、わたしと一緒におられる。わ
たしは、いつも神のみこころにかなうことをしているから、わ
たしをひとり置きざりになさることはない。」(ヨハネ 8:29)

「もう行きなさい！あなたをひとり置き去りにはしない。いつ
もあなたと共にいる」という聖霊の御声に従って、今日の私が
いるようにして下さった主の恵みと、信仰の巣であったヨイ
ド純福音教会から移り、信仰をもって荒野の牧会を始めてから
今に至るまで、聖霊の御声によって私の牧会地が決定されたが
ゆえに、自然と「聖霊様より、祈りより先に進んではならない」

という牧会哲学を持つようになりました。

真に御霊の導きによって牧会者として召され、「あなたは行きなさい」という御声に従って1981年2月、最初の牧会地（アンソン郡ボケ面サンサム里35号村）に着きました。最初の牧会地で3年が経った後、何処へ行くかも知らない状況の中で、「来年、あなたもまた旅立つだろう」という御声を聞き、断食して祈り、御霊の導きによってピョンテク純福音教会へ赴任するようになりました。

ピョンテクで5年が過ぎて、西海岸時代が開くその始まりの時、新しい聖殿を建てる敷地を購入しようと走り回っていた30代後半の私が、苦難の中にあるイチョン純福音教会に新しく赴任するようになりました。それもただ、聖霊の導きの中で「わたしの羊が泣いている、あなたに彼らを頼む」という、神の御旨に従って来たのです。

イチョン純福音教会牧会10年目で、今の新しい聖殿（土地6千300坪、建物2千坪）を建築し、全国牧会者WAKE UPセミナー（2003～2005年）を開催したのも、すべてが聖霊の御声に従順した牧会でした。ゆえに、私の牧会歴史は唯一、聖霊の働きです。

イチョン純福音教会で牧会している時、神は、「神の栄光と神の国建設のために、礼拝によって神を崇め、愛によって隣人に仕え、全身全霊を尽くして地の果てまで宣教する、聖霊充滿な教会」となり、神の御前に、隣人の傍で、そして世間へと向かう、教会共同体を建てるヴィジョンを与えてくださいました。

このヴィジョンを成し遂げるために、私は聖霊様と共に牧会をしながら、7大牧会哲学をより堅く握り締めるようになりました。

第一に、御霊による牧会（ゼカリヤ3:6、ルカ4:18～19、Iコリント2:4～5）を追求します。聖霊の感動、感化、内住、導き、御業を除くなら、私の牧会を説明することができません。私の牧会歴史は、唯一、御霊に導かれた牧会です。

第二に、祈りによる牧会（マタイ1:35～39、マタイ26:40）をしています。御霊との同行、協力し合う牧会のため、弱い私が主の御旨にかなった牧会をするためにも、祈らなくてはその御旨を悟ることも従う力ありません。

第三に、和睦する牧会（ローマ12:18、エペソ4:3）をしています。私は争い、葛藤しながらの牧会はしません。待つのです。私がいかに正しくて好きなことであっても、争いの要素があるなら、いつまでも待って、遅くなっても平和に、共にする牧会を追求しました。

第四に、種蒔き牧会（IIコリント9:6～11）を夢んでいます。日ごろの糧と蒔く種を区分し、蒔く種と蒔く場所を大切に思う牧会です。これを区別できず、牧会が失敗に終わる場合が多いです。蒔く種は私のものではなく、神のもののゆえに、必ず蒔かなければならないという、種蒔き牧会によって豊かな実を結ぶと信じる牧会です。

第五に、宝の牧会（マタイ13:44）をしようと思います。私は、自分の力で努力し苦労して得る「畑を耕す牧会」より、神の恵みによって与えられる「宝の牧会」を追求します。要するに、私が労苦し、その対価として得た成長と祝福の喜びに満足する

牧会だけではなく。神の恵みによって見出された宝を得るために、敢えて自分の中にあるすべてを対価として払って得た、より大きな宝のゆえに喜びと祝福を追求する牧会です。

第六に、ヴィジョン牧会（マタイ 28:18～20、使徒 1:8、エゼキエル 37:1～10）です。ただ良いものだけを受け取る祝福牧会より、辛くても、犠牲が要求されても、神のヴィジョンの方向へと前進し続けながらする、牧会哲学です。私の牧会場所、私の既得権を牧会の安全地帯と思い安住する牧会より、むしろ、神のヴィジョンを見つめ、成し遂げるために次の世代に再投資する牧会です。

最後に、メンター牧会（マルコ 3:13～15）をしています。知識伝達より生き方を伝達し、愛を食させてくれる牧会、先生のイメージより父親のようで、兄のような牧会者の道を歩んでいこうとします。何であれ、私を踏み台にし、あなたが成功する父の心をもって、神が私に与えられたすべてのものを持って行っても、すべてを差し出しても惜しくない、牧会遺産を伝授しようとする、メンター牧会を望んでいます。こういうメンターの心で、実業人を 100 倍の祝福者に、イチョン地域聖市化と世界回復のために 100 名の宣教師派遣を夢みて、今まで牧羊使役を担ってきました。

神から与えられたヴィジョンに従って働く中、今が、私の牧会と教会の「神のゴールデンタイム」の始まるの時であると認識し、私とイチョン純福音共同体に「神のゴールデンタイム 3 年」を宣言するようになりました。

ゴールデンタイム (Golden time) とは、「緊迫な事件や事故が起きた時、人命を救助できる最初の重要な時間」を指します。例えば、「心臓麻痺時、心肺蘇生術は 4 分以内に施行されなければならないことや、飛行機の中で非常状況が発生すると、90 秒以内に乗客を脱出させなければならないこと」などです。



ゴールデンタイムは、私たち信仰生活にも存在しますが、このタイミングを逃せば、人間関係も教会リバイバルも、主イエスも逃してしまいます。しかし適時に、ターニングポイントを乗り越えるなら、誤って悪くなったすべての部分を良い方向へと取り戻すことができます。

「神のゴールデンタイム」の 3 年間、
『次世代 100、献身者 300、セル家庭 300 の——立てる力、
内面から、自分から、自分の教会から——変化力、
1 千回の燔祭 3 年、断食の祈り 30 日、3 倍のラブ——復興力
今より、人より、世間より——影響力』という、
4 大牧会方向を設定し、「あなたの口を広くあけよ、わたしはそれを満たそう」（詩篇 81:10）と、「見よ、わたしは新しい事をなす。やがてそれは起る」（イザヤ 43:19）との二つの約束の御言葉を両柱とし、2016 年（生活において示そう！）、2017 年（考えを越えて実践へ！）、2018 年（すべてを完全にしよう！）と、毎年新しい標語をもうけ、神のゴールデンタイム 3 年を聖霊様と共に励んでいます。†

「酒に酔ってはいけない」
(エペソ 5:18) としながら、
なぜ主イエスは
カナの婚礼式でぶどう酒を
おつくりになったのですか？



ここには非常に重要な霊的なメッセージが隠されている。空のつぼは、ユダヤ教を象徴的に示したものだ。清めの儀式には七つのつぼがなければならないが、披露宴の家にはつぼが数的にも足りなく、六つのみだった。しかしもっと大きな問題は、その六つのつぼが全部空っぽだったということだ。従って人類は、七つ目の新しいぶどう酒を入れるつぼが必要だ。それはイエス・キリストというつぼだ。なぜなら、つぼに象徴される、キリストのぶどう酒となるその血潮なしに、私たち人類は真の喜びもなければ、救いもなく幸福もないからだ。

ユダヤ人たちにとって、ぶどう酒は重要な意味を持っていた。ぶどう酒は神が与えられる喜びであると信じたのだ。だからぶどう酒がなければ、喜びもないと考えていた。もちろんこのぶどう酒は、ぶどうの搾り汁を発酵させた赤ワインだ。

ユダヤ人は過越の祭のときに、必ずぶどう酒を飲んでいて、祝祭の夕食の際、種を入れないパンと苦菜、そしてぶどう酒を飲んだ。これは、過越の祭の意味を思い起し噛みしめることに、



その目的がある（出エジプト 12 章）。全家族がぶどう酒を回しながら飲んだ。これは、出エジプトの出来事が四段階によって成就されたと信じていたからだ。

第一段階は、紅海からシナイ山までの段階を吟味しながら飲んだ。第二段階は、幕屋を建てながら過ごしていた段階を瞑想しながら飲む段階だ。第三段階は、荒野での 40 年間の苦い思いを通して、この世には真の満足がなく、唯一、ヤーウェなる神だけが真の喜びであると悟る段階だ。第四段階は、ヨルダン川を渡ってカナンに入り、土地を分け与えられた救いの完成を記念する段階だ。この第四段階では、カナンの地で相続地を受け取り拡張しつつ享受する段階を、ぶどう酒を飲みながら瞑想する。

従って、主がカナで水をぶどう酒に変えられたのは、宴会にぶどう酒が切れないようにし、宴会に参加した人々に真の喜びを与えるためであった。そして水が変わり、真の喜びの本質である、イエス・キリストの血潮を通した救いの喜びを教示することに、根本的な目的があった。†



筆箱に イエス様の愛を 詰めてください



学生時代を振り返ると、筆箱には鉛筆、シャープペンシル、ボールペン、消しゴム、定規など筆記用具だけではなく、わたしたちの夢も一緒に入っていたように思う。筆箱がただの筆記用具を入れる箱ではなく、福音と夢を伝えるものになるよう、使役する筆箱ミニストーリー。筆箱ミニストーリーは、第3世界（開発途上国）の児童、青少年に手作りの筆箱に学用品と手紙を詰めてプレゼントし、夢と勉強を応援して福音の教えを従い分かち合う宣教の働きを行っている。

2012年冬、江原道ウォンジュ・ヨンラク教会にて地域青年たちの小さな読書会から筆箱使役は始まった。会を導いていたキム・チョンファン牧師はある日、ただ知識を分かち合うだけではなく、世の中のために分かち合えることは何があるかという質問を投げかけた。

「青少年たちは、どうやって分かち合えるか？誰に分け与えることができるか？」と悩むようになりました。そこで、最初は学用品を分け与えたらいいと思い筆箱を含み、各種の筆記用具と学用品を集めて開発途上国の子どもたちに贈りました。この小

さな働きが筆箱ミニストーリーの始まりです。」

筆箱ミニストーリーの『筆箱』には、「ピル（feel）がトン（通）する」という意味がある。「必ず通じる」という意味である。想いが通じる、福音を分かち合うという双方の意味を含んでいる。

キム・チョンファン牧師は2013年5月、筆箱コンサートを開いた。地域教会で場所を探しウォンジュ地域の賛美チームとCCMグループのゼイオスを招待して、文化と分かち合いの働きを共に行った。彼がコンサートと連携して分かち合いの働きを行うことができたのは、今まで10年以上も文化使役をやってきたからこそ可能だった。キム牧師は草の根の文化宣教会でミュージカルチームを担当し、様々な文化使役の講師、賛美チームとしても活躍した。

「キリスト教の文化が教会の中だけにとどまっていけないという考えを持っています。これまでの文化使役者という経験から、コンサートと筆箱という分かち合いの働きが出会い、教会の外での良い影響力をあらわすことにつながりました。」

筆箱使役は、開発途上国の青少年たちに学用品を分かち合うのが目的だった。国内では筆記用具がなく勉強ができないという子どもがほとんどいないからである。

「初めは、中古学用品を集めてアフリカ、中東、東南アジア地域に送ることでしたが、中古学用品は状態の良くない物が多かったです。飢餓対策と共に協力して働きを進める中、学用品は中古から新品に変わりました。」

キム・チョンファン牧師は2015年11月、仕えていた教会を離れて、筆箱ミニストーリーの働きを本格的に始めた。筆箱使役では、まず、手作り筆箱の原板を作り、筆箱の余白に絵とメッセージを書くことから始まる。そして、鉛筆、ボールペン、消しゴム、

定規などの筆記用具と直接書いた手紙を筆箱の中に入れて包装する。完成した筆箱は、郵送されるのではなく、直接人の手で現地まで運ばれ、現地の宣教師や奉仕者から筆箱を必要としている子どもたち贈られる。

「筆箱を製造から開発途上国の子どもたちの手に渡るまでに、多くの人たちの労苦と献身があります。筆箱の原板を作ることにも意味を持つようになりました。モンゴルから結婚して韓国に移住してきた女性たちや留学生が筆箱の原板を作っています。その方たち自身も、周囲からの理解と助けが必要な方たちです。私はこの使役が単純に学用品を贈る働きに留まるのではなく、人と人の心が繋がる働きだと思います。神様の心を詰め合わせること、それがこの使役の核心です。」

キム牧師は教会、学校、学院、福祉団体など筆箱を後援するという所には、どこにでも出かけて行きこの働きの意味を説明し、心を詰める筆箱使役を共に行っている。「ある時は、東ヨーロッパのアルバニアでジプシーに使役している宣教師から筆箱の要請がありました。その地域まで行ける人がいなかったため郵便で送りましたが、相手国の法律が変更され、多額の関税を払うことになり、結局、郵便物を取ることが出来ませんでした。その数ヶ月後、ドミニカ共和国でハイチ宣教をしている宣教師から筆箱後援の要請がありました。『完成している筆箱がないのに…どうすればいいだろうか』と考える中、アルバニアで何ヶ月も関税に留まっていた筆箱が数日前に戻ってきたことに気が付きました。2日後、ドミニカにいる宣教師を訪ねる人を通じてその筆箱が渡りました。今、その筆箱たちは、地球を一周してハイチの子どもたちの手に渡っています。」

丁寧に作られた筆箱は今までエチオピア、南スーダン、ウガ

ンダ、シリア、タイ、フィリピン、カンボジアなど13カ国の子どもたちに4千個あまりが贈られた。今年末までには、6千個が行き渡る予定である。

キム牧師は、筆箱を分かち合う働きを「多くの人々に福音と隣人を愛する意味を考えさせる」ことだと言う。

「障害者学校で知的障害者の方が、シリアの子どもたちが苦しみの中にいることを悲しみ、筆箱に表現したことがあります。また、手に障害がある方が筆箱に絵を描く為にペンを持ち頑張る姿には本当に感動しました。体が不自由な障害者、外国人の勤労者、お年寄りの方々とこの働きを共にすることにより、その方々自身も恵みを受けていることがわかります。『私が助けを受けるばかりではなく、私も誰かを助けることができる人間なのだ。宣教は特別な人だけがするものではない』という事実を悟ります。これこそが筆箱の福音です。韓国で暮らすカンボジアの人がシリアの子どもたちに筆箱を贈ることは、通常ありえないことでしょう。宣教は例外ではなく、出来ない人もいません。」

筆箱作りは教会だけではなく、学校や職場でも行うことはでき、50～100個の数量を作るのも可能である。筆箱を贈る国が決まれば、その国の現状を理解してこの働き共に行う仲間と筆箱に絵を描いて手紙を書く。英語ができれば英語、韓国語で書いても良い。受け取った子供たちが手紙の内容を知るために、英語やハングルを習ったりもするのも良いことだ。

「小さな教会での筆箱作りが本当に面白いですね。小学生からお年寄りの長老まで全世帯が一緒に参加します。一緒に作って誰が上手に出来たか、上手に出来た人に賞をあげたり、また、後援金を入れてくれたりもします。」



現在、筆箱ミニストーリーでは「クリスマス・フォー・シリア」というプロジェクトを進めている。12月9日チョンヌンのベテル教会と12月24日ヨンインのボペロウン教会で筆箱コンサートを開催し、内戦とISで疲弊した地域であるシリア難民の子供たちに筆箱を贈る予定である。

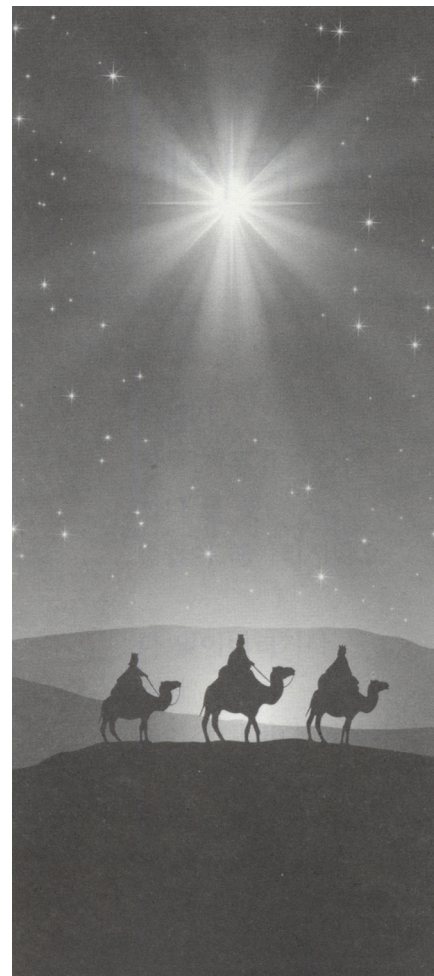
「世界に苦しい地域は多くありますが、今は、その中でもシリア難民たちに関心を持っています。クリスマスを迎えて一番辛い状況にいるシリアの子供たちにイエス・キリストの愛を分け合うために計画しました。年末にトルコとレバノンを訪ねてシリア難民に会う予定です。出会う人々がイエス様の愛に満たされますように多くの参加と祈りをお願いします。」†

筆箱ミニストーリー参加問い合わせ：lovefeltong.com 010-5463-5107
後援口座：シンハン銀行 110 - 216 - 773200 キム・チョンファン

世の終わりの日まで

ソン・ヒョンギョン 牧師 アメリカ・ニュージャージ・ゴスペル・フェローシップ教会

クリスマスにキリストを守ろう (Keep the Christ in Christmas)



アメリカの官公署と学校では「メリー・クリスマス (Merry Christmas)」という聖誕の挨拶が禁じられ、かわりに「ハッピー・ホリデー (Happy Holiday)」が大衆に定着した。それゆえ何年か前から、クリスマス (Christmas) という単語が入ったカードが文具店から消えつつある。これからは、クリスチャンのためのクリスマスカードを輸入しなければならない日があるだろう。もはや、聖誕祭に「メリー・クリスマス」と挨拶するのに神経をつかわなければならない状況となってきた。

今年のクリスマスから、

放送でキャロル・ソングを聴くことは少なくなった。アメリカには、11月の四週目木曜日——収穫感謝祭（thanksgiving）の次の日——から聖誕祭の夜12時まで、24時間休まずクリスマス・キャロルだけを流す106.7 Lite FM ラジオ放送があった。しかし、数十年間続けられてきたキャロル放送も、昨年終わってしまった。その理由は著作権法による金銭問題だという。しかし、合理的な理由として財政問題が挙げられてはいるが、霊的な領域からみれば問題はもっと深刻だ。全世界において、イエスの名前を映画の中で罵る国はアメリカしかない。そのような状況下、真のクリスチャンの中には自分の車の後ろに、飼葉おけに寝かした幼な子イエスの聖画と「クリスマスにキリストを守ろう（Keep the Christ in Christmas）」というステッカーを張る人が増えてきている。

エルサレムの町では三大宗教がせめぎ合っている。嘆きの壁を境に、ムスリムたちはイスラム教徒の安息日として金曜日に市場のシャッターを閉める。土曜日はユダヤ教の安息日であるため、ユダヤ人の市場がシャッターを閉める。そして日曜日はクリスチャンたちが休む。ところが、終末のローマ帝国のようなアメリカでは、年末に三大宗教が競い合う。サタン教、ユダヤ教、キリスト教の祭が……。

ハロウィン、ハヌカ祭、聖誕祭

10月の最後の日ハロウィンデー（Halloween Day）で、10月の初めから1カ月間、家庭や商店街、百貨店は悪魔の飾りつけでいっぱいになる。もはや一般の会社でも、成人までもがハロウィンを祝う機会が増えている。悪魔に仕える文化だと言っても、家の前は悪魔の人形でいっぱいだ。ハロウィンの悪魔

の装飾品売り場は、クリスマスの装飾品売り場よりも規模が大きい。学校でも法的にはハロウィンは小学校12年生以上とされているが、同性愛パレードと同様に、文化が法律を越えて人々を掌握している。

サタンを崇拝して、後に主イエスに立ち返った人たちの証しによると、アメリカにおける子どもの失踪事件が一年の中で最も多いのは、ハロウィン・シーズンだという。その理由は、サタンに仕える者たちが、子どもを供え物としてサタンに捧げる生贄を実際に行なっているからだという。誘拐した子どもの心臓を取り出し、とうてい口には出せないような行為に及ぶ。そして、ハロウィン当日、悪魔の服装をした子どもたちが家々の門を叩いて飴とチョコレートをもたらしていく。こういうことがアメリカ全域に広がり、文化行事となってしまった。しかし、サタン崇拝から立ち返ったキリスト者の証しによると、ハロウィンは文化ではなく、悪魔の飾りつけをした家庭や悪魔の服装をした人たちの中に、悪魔が本当に入っていくことにほかならない。こうして、10月の1ヶ月間、悪魔を呼び寄せ仕えるために、どす黒くおぞましい飾りつけが全都市を染め尽くす。

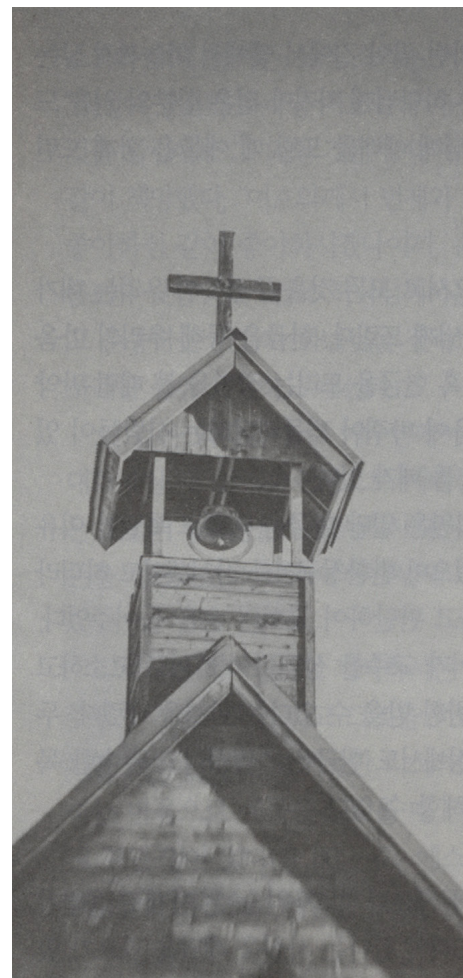
10月の1カ月間、サタン教のハロウィンが終わると、11月には収穫感謝祭を記念するトウモロコシの実が都市の街灯に飾られる。これは、ユダヤ教における仮庵の祭に由来するものとして祝われる。そして、12月中旬、聖誕祭より先にユダヤの祭——ヨハネによる福音書に書かれた『宮きよめの祭』と呼ばれる冬の祭——ハヌカ（ヨハネ10:22）となる。ユダヤ教のろうそくが家々に灯されて守られる。このハヌカの祭は、旧約聖書に書かれた聖書的な祭ではない。ユダヤ人たちの独立運動と関わる民族の祭だ。ユダヤ人たちが、聖誕祭を意識して対抗する

ために、新約と旧約の中間時代から守ってきた祭だ。ユダヤ人たちが大きな影響力を持つところでは、大都市で教会の庭に聖誕祭の飾りつけをすると罰金チケットを切られる場合もある。

こうしてハロウィンから収穫感謝祭に至るまでの飾りつけが続けられているのに対して、12月の初めから飾りつけるクリスマスツリーは消え去りつつある。もちろん、クリスマスツリーは、バビロン文化から由来したものだ。また、イエス・キリストがお生まれになったのも、聖誕祭の日ではない。バプテスマのヨハネの父、祭司ザカリヤがアビヤ組の祭司であった。ゆえに、バプテスマのヨハネの出生を知っており、当然キリストの誕生も聖書的に知ることができる。すなわち、主イエスは仮庵の祭の日にお生まれになった。そして初代教会は、歴史的に幼な子イエスの誕生を記念したことはなかった。聖誕祭は、AD313年キリスト教をローマ帝国が公認した時期から公のものとなったが、実際、聖誕祭はバベルの塔を建てて神に反逆したニムロデの誕生日だ。キリスト教を国教として公認したローマ帝国では、こうしてすべての宗教が混合された形で幼な子イエスの誕生祭が始まった。とにかく、聖誕祭そのものが霊的戦争であり、真理戦争であるのは確かである。

クリスマスツリーの例に見られるように、キリスト者の影響力は減少しつつある。反面、アメリカで始まった同性愛支持が全世界に広まっているように、悪魔を呼び寄せるハロウィンもアメリカから全世界に広がり、並行してクリスマスの影響力の低下も全世界に広まった。聖誕祭にクリスマスカードとツリーは守れなくなっても、『キリスト・イエス』は必ず守り抜くべきであり、また伝播しなければならない。東方の博士の如く！†

献金



主日礼拝度に、聖徒たちは献金を捧げる。神は、出エジプトしたイスラエルの民たちに必ず、捧げ物を携えて三つの祭（過越の祭、刈入れの祭、仮庵の祭）に参加するように勧告された。また聖書には、最初の礼拝に登場するアベルとカインの礼拝において、カインは地の産物を捧げ、アベルは羊の初子とその油をもって捧げた。けれども、神はアベルと彼の捧げ物をお受けになり、カインとその捧げ物は受け取ってくださらなかったと記録している。

信仰の先祖アブラハム

は、ソドムとゴモラの戦闘において勝利した後、その戦争で得た戦利品の十分の一を、サレムの王メルキゼデクに捧げた。ヤコブは、兄エサウから逃れる途中、荒野の道で野宿する際、頂が天まで達する天のはしごに神の御使たちが上り下りする夢を見た。目を覚ました彼は、神が与えられた、すべての十分の一を捧げると誓願した。こうして私たちは、捧げ物を携えて神に礼拝を捧げる。礼拝と捧げ物は一つというわけだ。

神は、天地万物をお創りになり、そのすべてを私たちに与えてくださった。同様に私たちも、汗水流し働いて得たものの一部を神に捧げる。この捧げ物を通して、私たちの心も神に捧げることになる。ところが時折、献金を捧げるのをみると、教会に多額の献金をささげた後、再び心が変わり返してほしいという人がいるが、どう対応すべきか疑問に思うときがある。

法的に献金は、贈与に該当する。裁判所は、「いったん献金したので、特別な理由がなければ返還を請求する法的根拠はない。また、返却請求書を作成したとしても、返却約定が成立したとは見なせない」と、教会の味方になってくれた。反面、似非宗教の言葉に騙されて献金した人が、教主を相手に詐欺の罪で控訴し、損害賠償請求をした事件で、献金を返却してもらえないという判決が下された。二つの判決文を比較してみると、世間の法廷でも、献金は自発的かつ純粋な目的でしたときに保護してもらえると、ということがわかる。

世間の法律が献金として認めているかの問題よりも、より高い次元からみて、神が受け取ってくださる供え物を捧げなければならぬと、悟る必要がある。前述したように、アベルとカ

インの礼拝で、神はすべての供え物を受け取ってくださらなかった。アベルの供え物はお受けになり、カインの供え物は拒まれた。それだけではなく、神は、供え物よりも、人の中心をご覧になるという点を、この出来事によって確認することができる。

私たちがよく知っているように、神はサウロ王に、アマレクをこの地上から滅ぼし尽くすようお命じになり、そのすべての所有を残してはならないと命じられた。しかしサウロは、価値あるものは滅ぼさず、アマレク人の王アガグと肥えた牛と羊を生かした。サムエルは、戦争で勝利し帰還したサウロに尋ねた。——「それならば、わたしの耳にはいる、この羊の声と、わたしの聞く牛の声は、いったい、なんですか」（Ⅰサムエル 15:14）。サウロ王が答えた。——「人々がアマレクびとの所から引いてきたのです。民は、あなたの神、主にささげるために、羊と牛の最も良いものを残したのです。そのほかは、われわれが滅ぼし尽しました。」このサウロの答えに、サムエルはこのように咎めた。——「主はその御言葉に聞き従う事を喜ばれるように、燔祭（はんさい）や犠牲を喜ばれるであろうか。見よ、従うことは犠牲にまさり、聞くことは雄羊の脂肪にまさる。」結局神は、神の望まない供え物は必要とされず、従順する心と神を全面的に信頼する信仰を示してほしいと願っておられる、という点を上記の事例を通して教訓しておられるのである。

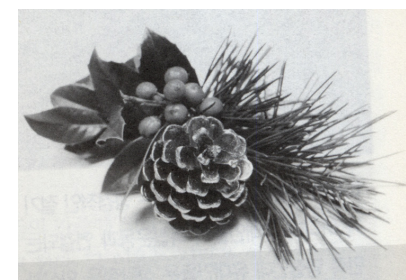
このような脈絡から、主イエスはサマリヤ・スカルの町の井戸で、女性と対話されるときに、霊とまことによって礼拝を捧げなさいと言われたことと同じだ。しかし主は、供え物の重要性を弱化させられたのではない。主は、やもめが捧げ

あけまして

おめでとうござい

本年もよろしくお願いいたします。

(出版部一同)



るレプタ二つを称賛され、マリヤがつぼの香油を主に注いだとき、大変喜ばれた。

ならば、神に喜ばれる供え物になるための条件は何だろうか。私たちは喜びをもって主に捧げ、主はそれを喜んで受け取ってくださる——これこそが、真の捧げ物になるのではないだろうか。出エジプトしたイスラエルの民が聖所を建てるために、志願して喜んで供え物を捧げた。モーセは、あまりにも多くのものが集まったので、中断させなければならないほどだった（出エジプト 36:1～7）。またエズラが神殿を再建しようとしたとき、イスラエルの民たちは喜んで供え物を主に捧げた。（エズラ 8:24～30）

もうすぐ訪れる聖誕祭を思い浮かべるとき、私たちは東方の博士が命がけで幼な子イエスを訪ねて行ったことを思い出す。この時、東方の博士たちは黄金、乳香、没薬を携えて行き、幼な子イエスに捧げた。それならば、今日、私たちが主に捧げる供え物は何であろうか？ ジョン・ウエスレーが貧しかった幼い頃、礼拝に参加し、捧げるものがなくて自身の体を主に捧げると告白したように、私たちの貴重な時間を主に捧げるときが、もはや迫ってきているようだ。主に祈り、深い愛の交わりをもつことよりも大切なことはない。主は今も変わらずに、私たちに次のように語っておられる。「わたしはあなたを救い出す」「わたしはあなたを守る」「わたしはあなたを導く」と。†

発行：純福音東京教会・出版部

【翻 訳】： 諸星健児 執事、林俊秀教育生、間杉綾乃 執事、李 珍 執事、朴秀珍 執事、山野永理 勸士、
趙芝賢 伝道師、澤田義則 執事、金景娥 執事、朴宰完 按手執事、金澤由紀子 勸士

【日本語校正】： 諸星健児 執事、松谷恵理 執事、間杉綾乃 執事、金澤由美 姉妹、吉田綾子 執事、
笠原幸子 執事、武石みどり 執事、向川 誉 執事、澤田義則 執事

【印刷・製本】： 間杉典生 按手執事

【再 編 集】： 金澤由紀子 勸士
